

■「朝日『社説』の戦後史認識」を読んで、私にも同じ危機感が……

山崎 晶春(マスコミ九条の会会員)

重苦しい年明けです。

梅田さんの「朝日『社説』の戦後史認識」を読んで、深い共感を覚えました。

私も「戦時世代」の一人として、今の大手マスコミの今日の政治報道の在り方に深い危惧を抱いております。

防衛予算の急増、集団的自衛権を前提にしてのガイドラインの見直し、さらに曾野綾子や八木秀次「つくる会」元会長などをメンバーとする「教育再生会議」の設置など、安倍政権の打ち出す矢継ぎ早の逆コース政策を見るにつけ、それをただ流すだけのマスメディアの思想性、歴史認識はこれで良いのか、と強い疑問が湧いてこざるを得ません。

今のマスメディアの幹部、記者のみなさんは、これまでの日本の近代史、現代史の問題点、これからの未来社会について、どのような観点から考えているのでしょうか。

「国民学校」で明治憲法体制下の軍国主義教育の非人間的な、嘘の教育がどのようなものであったか、昭和ヒトケタ生まれの体験者として、現在の年若い現役のジャーナリストたちが、親や祖父母たちの生きた時代の実態をどう認識しているのか、本音を聞きたい思いです。

67年前の敗戦から今年の3・11までの戦後日本の在り方、戦争責任の追及の弱点、原発「安全神話」を推進した政・財・官・マスコミなど責任のとらせ方、特に政党の自・公に対する責任追及の問題は、戦争責任追及問題と深く共通していると考えます。老齢の私たちのやれることは微々たるものです。

それでも、メディアの弱点の克服こそ、いま急がなければならないと考えています。

(了)